

会派視察研修計画書

平成30年6月1日

碧南市議会議長 様

会派名 公明党

代表者名 加藤 厚雄

下記のとおり、視察（研修）を計画したので届け出ます。

参加議員	加藤 厚雄 ・ 大竹 敦子		
日時	平成30年8月1日（水）～平成30年8月3日（金）		
視察先	8月1日（水）	北海道室蘭市	
	8月2日（木）	北海道由仁町	
	8月3日（金）	北海道岩見沢市	
研修内容	室蘭市・・・観光行政の取り組みについて 由仁町・・・防災対策の取り組みについて・表敬訪問 岩見沢市・・・病院経営の取り組みについて		
日程	8月1日（水）	北海道室蘭市	14:00～16:00
	2日（木）	北海道由仁町	13:30～15:00
	3日（金）	北海道岩見沢市	10:00～12:00
交通手段	公共交通機関利用 <input checked="" type="checkbox"/> 航空機利用	自家用車利用 <input type="checkbox"/> 台	
	乗降車駅名（ 碧南中央駅 ）	所有者名（ ）	



様式14

会派視察研修報告書

平成31年 / 月 30日

碧南市議会議長 様

会派名 公明党

代表者名 加藤厚雄 印

下記のとおり、視察（研修）を実施したので報告します。

なお、参加者議員 2 人分の視察研修成果報告書を添付いたします。

参加議員	加藤 厚雄 ・ 大竹 敦子		
日 時	平成30年8月1日（水）～平成30年8月3日（金）		
視 察 先	8月1日（水） 北海道室蘭市 8月2日（木） 北海道由仁町 8月3日（金） 北海道岩見沢市		
研 修 内 容	室蘭市・・・観光行政の取り組みについて 由仁町・・・防災対策の取り組みについて・表敬訪問 岩見沢市・・・病院経営の取り組みについて		
日 程	8月1日（水）	北海道室蘭市	14:00～16:00
	2日（木）	北海道由仁町	13:30～15:00
	3日（金）	北海道岩見沢市	10:00～12:00
備 考			

※ 相手方から収受した資料の写しを添付してください。

視察研修成果報告書

平成31年 / 月30日

議員氏名 加藤厚雄 印

視察（研修）に参加したので、下記のとおり成果を報告します。

記

- 1 期 間 平成30年8月1日（水）～平成30年8月3日（金）
- 2 視 察 先 北海道室蘭市 由仁町 岩見沢市
- 3 視察の種類 会派視察
- 4 視察の成果等

室蘭市 観光行政

室蘭市では平成元年6月に「室蘭市観光振興計画」を策定し、平成10年4月には改訂を行い、この計画に基づき観光振興に取り組んでいる。現在、どの地域も少子高齢化、人口減少、高度情報化などにより社会環境が大きく変化している中、観光ニーズもスタイルが多様化している。地域により観光資源は当然違っているが、その環境の中でも、前向きに観光振興計画を策定、改訂している事自体が評価に値する。

観光は、人や情報の移動・交流、地域における消費の増加や新たな雇用の創出など幅広い経済効果をもたらすといわれている。観光客数の増加できなくても、減少を抑えるためにも、平成20年3月に時代に即応した新しい観光振興を行うため従来の計画の見直しを行い「室蘭市観光振興計画」を策定している。

由仁町 防災対策

由仁町役場に向かう途中に変わった名前の川を発見した。川の名は「ヤリキレナイ川」昔、氾濫が続いて、ついた名ということであるそうだ。近年の北海道の地震や風水害があるが、由仁町では被害は少ない方であるとの事であった。

平成23年度から地域防災備蓄を開始し、平成28年度からは期限切れ備蓄品の更新をしている。備品数は想定避難者数の3日分の食料、衣服などである。

由仁町には大規模災害時に誰でも無料で使用することができる特設公衆電話が避難所施設に13箇所ある。回線工事費用はNTT東日本が負担し、電話機本体のみ由仁町が負担した。この特設公衆電話は碧南市でも、市民の生命を守るために必要と感じた。

岩見沢市 市立病院経営

岩見沢市立総合病院は15の診療科を有し、484病床で災害拠点病院である。経営状況は平成6年度から22年連続で黒字を確保している。経営の効率化は、全国の病院で行われているものと違いはない。原因は医師等の意識の違いであると認識した。

会派視察研修成果報告書

平成31年 1月23日

議員氏名 大竹 敦子 印

視察（研修）に参加したので、下記のとおり成果を報告します。

記

- 1 期 間 平成30年 8月 1日（水）～平成30年 8月 3日（金）
- 2 視察先 北海道 室蘭市、由仁町、岩見沢市
- 3 視察の種類 先進地視察
- 4 視察の成果等

室蘭市「観光行政の取り組み」について

室蘭市は、北海道有数の工業都市でありながら、山や海に囲まれ美しい自然にも恵まれた街である。そうした観光資源を最大限に工夫し、活かして観光行政に力を入れている。周辺には、洞爺湖、登別温泉などの人気の観光地があり、それらの観光客を室蘭にも取り込んでいくための施策も重要だと考えている。

室蘭市の観光地は自然景観が多いことから、有料の観光施設が少ない。そのために、観光以外の資源を観光化するため、工場夜景鑑賞バスツアー、室蘭夜景ナイトクルージングなどを計画する。また、子育てのためにやって来るイルカやクジラのウオッチングなども実施している。

「室蘭観光推進計画」を策定し、年間120万人で推移し頭打ちになっていた観光客数を140万人まで増やす事を目指していくため、観光資源の洗い出し、観光消費学やHPで市民の意見を取り入れるなどさらに内容の改定を進めている。また、近隣市との連携を深め、広域観光の取り組みとして、登別洞爺湖広域観光圏、北海道新幹線NIT TAN地域戦略会議などを進めている。

外国人観光客の対応としてマップの配布、スマホ決済システムの試験的導入、外国語を話せる従業員の採用なども進めている。また、飲食店等にも力を入れ、食事やお土産など目に見える形でお金が市内に落ちていることが分かるようにすることにも力を入れている。

近年、映画、ドラマ、CMなどの撮影で注目を集めていることを受け、室蘭市の魅力を被写体として活かした滞在型フォトコンテスト「撮りフェスin室蘭2018」も開催した。受賞した作品は室蘭市のポスターなどの広報物に活用する。

今後の課題は、ストーリー性のある歴史・風土・景観・文化の掘り起こし、消費拡大のためのメニュー、土産物の開発などを挙げている。

市が持っている観光資源はPR方法や工夫次第でいくらでも市外からの人を呼び込み、消費を活発にすることができると思う。碧南市においても、「竜の子街道」で広域

連携による観光に力を入れているが、さらに結果がついてくるまでに推進するには、独立した部署で専門的に取り組む必要があると思う。観光客が増えれば、商店街にも、活気が出てくる。室蘭市では、個々の観光資源を様々に工夫し、連携を図ることで大きな成果を出そうと努力されている。本市においても更なる努力が必要である。

由仁町「防災視察の取り組み」について

由仁町は、北海道の道央南部に位置し、新千歳空港まで車で約40分、札幌へは約1時間と都会へのアクセスが便利で、都会に近い田舎と言われ、豊かな自然に囲まれたとても環境の良い地域である。

この由仁町に近年起きた大きな地震は、平成15年9月26日の最大震度6弱（由仁町は震度4.5）の十勝沖地震、平成25年2月2日の最大震度5強（由仁町は震度3）、また、由仁町に近年起きた水害は、平成28年から毎年7、8月に100mm前後の大雨にも見舞われている。

そこで、地域防災備蓄整備方針で、平成23年度から東日本大震災をきっかけに、避難者200人×3日分の備蓄を2か年計画ではじめ、平成25年度、避難者300人×3日分の備蓄を3か年計画に切り替えて進めている。

自助への啓発は、防災パンフレットの配布やHPで周知を図っている。

災害時に、無料で利用できる公衆電話のサービスを受けられるように、公共施設、オフィスビル、駅、コンビニなどに設置し、災害時、一般の電話より優先的に通話ができるように特設公衆電話サービスを実施している。回線工事費用はNTTが負担し、電話機の費用は由仁町が負担するというように進めている。

また、民間との連携ということで、北海道コカ・コーラボトリング（株）との提携で、災害時対応型自動販売機からの飲料の提供、災害時対応型自動販売機の電光掲示板で情報提供ができるようにしている。

碧南市においても、災害時対応型自動販売機が設置され、市民にとって、とても良かったと思う。できれば、今後、さらに設置台数を増やしていただきたいと思う。また、特設公衆電話についても、発災時、家族との連絡を取ろうとしても、なかなか電話やスマホが繋がらず、安否がとても心配な時、主要な施設や避難所となる施設に設置していると、発災時にすぐに使用でき、とても市民の安心につながる。事前に特設公衆電話を設置しておくことがとても必要だと思う。

岩見沢市「病院経営の取り組み」について

岩見沢市立総合病院は内科、外科をはじめとする15の診療科を持ち、南空知地域保健医療福祉圏域内の救急医療、小児医療及び高度医療などに対応する地域センター病院として圏域内の中核的な役割を担い、さらに、災害拠点病院、地域周産期母子医療センターにも指定されている。病床数は一般、精神、感染症合わせて484床である。職員数は、常勤医師50人、正看護師306人をはじめ516人の陣容である。患者数は、入院延べ約13万人、外来延べ約24万人、病床利用率は約73%前後で推移している。経営については、松坂市民病院を参考にコンサルタント会社に委託して取り組んでいるとのことである。医療機器も手術支援ロボット（ダヴィンチサージカルシステ）など最新機器を導入し、医療にあたっている。

しかし、人口減少、医師不足等自治体病院を取り巻く環境は厳しさを増している中、岩見沢市立総合病院では、更なる健全経営のため、「岩見沢市立総合病院新改革プラン」を策定した。岩見沢市立総合病院では、患者の札幌圏など他圏域への流出が流入を大幅に上回っていることを踏まえ、今後は、地域の中核を担う基幹病院として、専門的な治療を受けるため他圏域の医療機関へ受診しなくてもよいように、専門性の高い良質な医療を提供できるよう、市民の満足度、信頼感の向上を目指すこととしている。

経営の効率化の施策として、①委託業務の見直し ②医薬品、診療材料の適正な在庫管理、品質管理及び市場価格調査による適正な価格での購入 ③クレジットカード決済の導入 ④電子カルテシステムの活用 ⑤包括評価方式(DPC)対象病院への移行 ⑥医療クラークの配置 ⑦院内保育の実施 ⑧認知症ケアチームなどチーム医療の強化 ⑨緩和ケアチームによるがん患者支援 ⑩地域医療連携の強化 ⑪BCPを盛り込んだ災害マニュアルの作成などを実施している。

今後は地方公営企業法の全部適用への移行を検討する。それにより、人材を内外問わず登用することも視野に入れていく。

公立病院の厳しい状況は、碧南市民病院においてはさらに厳しいものがある。岩見沢市立総合病院の新改革プランも碧南市民病院の改革プランも、あまり差異はないように思うが、経営陣と医師との意思の疎通がネックではないかと感じた。地域柄からか地域に根差した地域貢献の思いを強く持った医師により、経営方針に基づいた医師の診療体制が整っているように思う。その上で、圏域内完結の診療供給体制を作ろうという意気込みも勝っていると感じた。この三河の地域ではそのような考え方はできないが、二次救急であるならば、それを最大限に活かした改革を断行し、経営の黒字化に向け頑張っていたいただきたい。

がん対策の緩和ケアに対しては、市民病院でも終末期医療・看護にもう少し力を入れ、地域に密着した市民に信頼される病院を目指していただきたい。